

水島協同病院は差額ベッド料はいただいております



—みずきょう 今日の1枚—

8.14 倉敷医療生協創立者 栗本泰治氏講演会  
創立前後を熱く語る栗本名誉理事

# 院内全体学習 次世代へ伝える大切さ知る

8月21日、原水爆禁止2024年世界大会・広島（8/4～6）に参加した3名より報告がありました。

原水爆禁止岡山県協議会の平井昭夫事務局局長は、「核兵器使用の脅威が高まる『瀬戸際』の情勢の一方で、核兵器禁止条約を署名・批准する流れが世界の一大勢で『希望の光』となっている。運動を大きく進めましょう」と訴えました。

次いで、大会に3日間参加した篠田壮志さん（総務課）からは、「被爆・核実験被害の実相普及を次世代に伝えていくことの大切さを再認識した。高校生や大学生のみなさんの発言にも励まされた」と感想がありました。大会初参加の福田和也さん（医療福祉相談室）は、「旧ソ連時代の核実験被害者



福田さんの報告をきく職員

の援護に取り組み、核弾頭を撤去して非核条約を

結んだ力ザフスタン大使館の方の発言に励まされた。核兵器のない世界へ向けて取り組むことが大切だと実感した」と発言しました。報告会に参加した職員からは、「広島での『黒い雨』訴訟や長崎の『被爆体験者』問題がよくわかった」「核抑止や戦争に頼るのではなく、国際紛争を話し合いで解決することが大切だと学んだ」などの感想が寄せられました。（社保・平和委員会）

## 8/24 院内ICLSミニ講習会 緊急時の対応力アップを目指して



救命対応を行う当院看護師

当院看護部を対象に、院内での急変対応能力の向上を目指して、講習会を開催しました。インストラクター8名、受講者12名、合わせて20名の参加がありました。講習会では目的と目標を明確にして、院内急変患者を想定したBLS（一次救命処置）とマスキによる換気方法、AEDの演習を行いました。そして、3つのチームでシナリオを通し、チーム蘇生に必要なスキルを学んでもらいました。受講者だけでなく、インストラクターも教えながら学びを深め、共有し、有意義な学習会となりました。急変する前のサインに気づける看護師や、急変時に適切な対応ができる看護師を育成するために、今後も講習会を計画していきます。（急変対応スキルアップ向上委員会 多賀美和）

### 虹の意見箱

みなさまから貴重な声をいただいています

【謝辞】女性  
回収場所：外来棟  
2階



【お答え】  
無事退院されましたこと嬉しく思います。術後の経過はいかがでしょうか？  
点滴・採血は痛みを伴い、まして血管が細いと

なると何度も穿刺されたりと苦痛を感じますよね。今回苦痛無く、また手術も最小限の痛みで過ごされたことご意見頂きスタッフ共々嬉しく励みになります。患者様が満足して安心・快適な療養生活となりますようこれからもスタッフ一同、日々精進し努めたいと思っております。ご意見ありがとうございます。

3階南病棟

## No.4 私をつくるモノ

職員の日々のエネルギーとなるモノなどをご紹介します。

総務課 安田直美

18年ほど前、たまたまテレビで見ていたプロ野球の阪神対広島戦。そこに映っていた、赤い帽子をかぶって走攻守に躍動していた一人の内野手に惹かれ、「球場に行って彼のプレーを見てみたい」と思ったのが、野球観戦に行くようになったきっかけです。年に数回ほどの楽しみですが、現地でしか味わえない球場の盛り上がりや響く打球音、ファインプレーがあると敵味方関係なく拍手をおくりあうところが、特に好きです。今年こそ推しのチームが日本シリーズに出場して観戦できることを願って、日々頑張っています。